

保育経営懇ニュース

〒162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F
Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

2024年2月号
No.242

2024年2月19日発行
全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇役員リレーエッセイ

1日も早い復興を…大阪から考える

大阪・どろんこベビー園 五藤清子

1月1日、面白いテレビはないかな？とリモコンを操作しながらテレビを見ていた…地震だ！「南海トラフか？」大きく揺れた。あまりにも長いのでベランダの窓ガラスを少し開け、初めて私はテーブルの下に避難した。でも怖くて玄関のドアを開けに行くことはできなかった。マンションごと前後に揺れた地震はようやく収まった。避難を呼びかける報道が続き、あたりはだんだん暗く夜になっていった。ようやく震源地がわかり津波が起こり大きな被害だと報道された。それでも被害の全容はわからなかった。一夜明けて徐々に想像以上に被害の大きさに気付く。「復興に全力を注がないとアカンやん！」と書いていつもはあまり見ない X (旧ツイッター) を見ていたら、災害情報とともに「万博の資材を被災地に！」「万博している場合じゃない」とつぶやかれている。そして「万博中止」がトレンド 1 位になっていた。なのに次の日には大阪万博の開催を、知事が嬉しそうに宣伝していた。録画ではあるが、なんと場違いな番組だ！世間は「地震被害」の情報を流しているのに。

最近になって大阪万博の学習会や集会によく参加するようになった。参加すればするほど、疑問と怒りが増してくる。そもそも汚染された、地盤の緩いところにイベントをもって来るなんて、沖縄辺野古の土地がマヨネーズ位、柔らかな土地だとすると、埋め立て地で行われる大阪万博の土地は「豆腐」位柔らかな土地らしい。また交通の最終ルートは 2 本しかなく必ず交通渋滞を招くという事。「トイレ付きのバスでしか行かれへんよ」とのこと。参加予定各国もどんどん辞退している、なのにどんどん宣伝をしている。予定費用はどんどん膨らみ、住民に知らされないまま市税府税がどんどん使われている。そういう税金の使い方ではなくて、地震復興に使ってほしい。それなら文句は言わない。

私は大阪が好やねんけどなあ。大阪と言えば「マスク人口」が多いこと、電車に乗っているとマスクは当たり前。つけていないと罪悪感を覚えるほど。最近東京へ行く機会が多く、いつも思うのは「マスク人口」が少ないこと。大阪人は用心深いのか？でも自転車のヘルメットの着用は断トツで大阪が低い。これまた愛すべき大阪。昨年自転車通勤の職員には全員ヘルメットを購入した。好きなデザインを選んでもらった。だけど保護者や周りの人たちの着用はなかなか増えない。そらそうか…一番着用していないのは私だった。これは愛すべきことではないなあ！明日からはちゃんと着用しよう。そして1日も早い復興を！私にできる事からしていこう。

保育をめぐる情勢

能登半島地震、国の災害対応について

2024年1月1日に発生した能登半島地震での保育所等の被害状況や対応について、こども家庭庁から随時発信されています。

被害状況については、地震発生が1月1日だったこともあってか、人的被害は報告されていません。施設の被害は、石川県を中心に、新潟県・富山県にも及んでいます。2月2日までの情報では、被災施設数は、最大で、石川県219施設、新潟県12施設、富山県50施設となっています。特に震源であ

る能登地方では、地震発生後1か月たった2月2日時点でも、断水や停電が復旧していない施設もあります。

保育関係の災害対応については、保育料を負担することが困難な場合は市町村の判断で減免できること、避難してきた被災者を受け入れる保育所では利用定員を超過して受け入れを可能とするなど人員や設備基準の柔軟な取り扱いが可能であること、などが、事務連絡として1月2日に発出されました。その後、1月12日に、新たな項目を追加し、事務

連絡「令和6年能登半島地震に係る保育関係の災害対応について（周知）」が発出されています。ここでは、災害復旧に当たっている場合は保護者の就労の有無に関わらず保育の必要性が認められること、保育所等が災害により臨時休園を行った場合でも市町村は通常通り給付費（委託費）を支給すること、

保育所等の収入は保障されることから人件費も通常通り支払うことが求められる、といった項目を加え、都道府県等に対応を求めています。保護者に向けては、2次避難先で転園手続きをしなくても保育所等を利用できること、2次避難先自治体の保育関係窓口にご相談するよう、案内しています。

人事院勧告引き上げを受け、2023年4月に遡及し公定価格引きあげ

2023年度の公定価格が、人勧引き上げによる国家公務員給与の改善を受けて、4月分にさかのぼって改定されます。公定価格の積算基礎となる保育士等の給与基準が、国家公務員の俸給表の若年部分に位置付けられていることから、公定価格の人件費5.2%増となります。この引き上げは、2024年度にも引き継がれます（ただし、人事院勧告引き下げがあれば当然反映される）。

今回の公定価格改定にあたり、改善分をそのまま職員給与の改善に充てるように指示する自治体も

あるようですが、国は人件費として使い道を規定するような要件等を課していません。また、人件費以外の費目（水光熱費や教材費、食材費など）も公定価格には含まれていますが、それらの費目の単価は改善されていません。諸物価高騰が各施設の経営に影響を与えていることを考えると、今回の引き上げ分をどの程度職員の処遇改善に充てるのか、各施設で判断を迫られることとなっています。対応について他の施設と交流することや、公定価格自体の改善要望を国・自治体にあげていく活動も重要になっています。

※2月29日は国会への署名提出行動です（資料同封）。

「こども誰でも通園制度」、試行的事業の実施要綱示される

国は、「こども誰でも通園制度」の本格実施を、2026年度と定めています。それに向けて、2023～2024年度で試行的事業を一部自治体で実施し、2025年度は「地域子ども・子育て支援事業」の一つとして位置づけ実施自治体数を増やしていく、としています。2025年度までは補助事業として、2026年度からは新たな給付制度として全自治体での実施を目指す、というのが現在示されているスケジュールです。また、全国的なシステムの構築も予定されています。ここからわかるのは、試行的事業とは、本格実施する制度とは別ものということです（関連

性はあるものの）。この段階で、現場の実践にもとづき、考慮すべき視点や必要な条件などについて、発信することが求められています。

国は、1月18日付で、「こども誰でも通園制度」の本格実施を見据えた試行的事業の実施要綱を示しました（同封資料）。そこでは、事業の補助単価（子ども1人1時間当たり850円）、施設が徴収する利用料の標準額（子ども1人1時間300円）、月10時間を上限とする利用時間の管理のために紙のチケットを用意するなど示されています。現在108自治体の実施予定です（資料参照）。今後実施場所は増える見込みです。ぜひ、情報をお寄せください。



地域の活動～各地で学習会 長野県民間保育園経営研究懇話会

2023年10月18日、大宮勇雄さんを講師に学習会を開催しました。テーマは「何が、私たちに苦しめているのか-「楽しい保育」を取り戻すための10か条-」。長野県民間保育園経営研究懇話会の園長・理事研修として、どのような話を聴きたいか会員に意見を聞きました。園長たちも保育



に入る等、事務時間をとるのも大変な中で現場は毎日必死で頑張っていますが、疲弊した様子も見られます。大きな視野にたったお話をきき学びたいという事から今回大宮先生にお願いしました。

当日は、岡谷市・諏訪市・中野市・松本市・須坂市・原村・長野市・東御市・佐久市・伊那市・飯田市・下諏訪町の 11 園から 22 名の参加がありました。今の保育現場の現状・学校とのかかわ

り・ニュージーランドの保育などの話と共に保育現場を追い込んでいるのが、「個人の責任」ではないこと、何が大切なのかをしっかりと話していただき、参加者から多くの感想が寄せられました。

オンラインでの講演で、大宮先生に Zoom ホストをお願いしたので、今後、長野経営懇として準備していかななくてはと思いました。

(報告：長野経営懇 小松鈴代)

京都民間保育園経営研究懇話会

11月1日に「不適切保育」問題をどうとらえ、どう解決するか？」をテーマに、大宮勇雄さんにお話しいただきました。『不適切保育』という言葉がニュースにも使われている中、そのことを現場としてどう捉えていくのか学習の必要を感じ、企画しました。京都保育運動連絡会と共催して、会員園に限らず、よりひろい参加を呼びかけました。現場の保育士さんにより多く参加してもらるように、夜の開催とし、対面&オンライン併用で計画しました。当日は、京都府下、京都市の法人理事、園長、主任、保育士などで、会場 109 名・オンラインで 220 名が参加しました。労働組合、保護者会等、近隣全国経営懇会員園からも参加があり、集団でオンライン視聴した保育園も複数ありました。

「2年目の職員が「楽になった」と話してくれた。ベテラン職員は「大事にしていることをやっ



ていこう。伝えなあかん、学習しなあかん。」と話していた」、「会議などでの振り返りで、どこか自分が責められているような感情を抱くことがある。保育はチームですることという考えを根本にもって、少し勇気をもって周りとお話を意識しようと思う」、「不適切保育を常態化させるような園が現実にある中、どうなくしていけるのかは社会的課題として考える必要がある」といった感想が寄せられています。

(報告：京都経営懇 中島直子)

東海北陸ブロック経営懇

12月5日に、『「こども未来戦略方針」の分析・問題点と保育園の課題』をテーマに学習交流会を開催しました。講師に大阪保育研究所の杉山隆一さんを招き、各地（愛知・岐阜・静岡・石川）からの活動報告も交えて開催しました。

東海北陸では、ブロックで世話人を決め学習や交流会を企画しています。7月の交流会をふまえ、8月・10月に世話人会を開催し、企画内容の検討と参加組織を進めてきました。

今回は会員外にも呼びかけ、岐阜 1 名、福井 2 名、石川 2 名、静岡 11 名、愛知 45 名の計 61 名が参加しました。(報告：愛知 小西文代)

2024年の合研は熊本で開催されます

12月に全国実行委員会が開催され、56回合研(熊本)に向けて動き出しています。今回は、会場での参加者を増やす方向で準備中です。

分科会提案募集中

今回は現地で 20 分科会を開催できるように、運営する地域を募るなど準備を進めています。自

主提案の申込みは 3 月末締切です。実践をまとめて報告したり、分科会で論議してもらうことは職員にとって貴重な学びの機会になります。分科会への提案を、各園で積極的にご検討ください。

「民間保育園の経営と運営」分科会は現地開催 経営懇が運営を担っている「民間保育園の経営と運営」分科会は、現地熊本で開催します。ぜひ、会場での分科会にご参加ください。

能登半島地震 被災地への支援

1月に開催したセミナーでは、被災地支援募金として、群馬のサテライト会の43,000円含む約30万円超が寄せられました。今後、石川県内の会員園と相談し被災地の保育所等に届けます。

また、北海道の会員園・たどし認定こども園かぜっこ・園長の殿平さんから、所属する浄土真宗本願寺派のつながりで1月20～21日に実施した支援活動について報告資料をお寄せいただきました。一部抜粋して紹介いたします（同封資料参照）。今回、このニュース発行にあたり、報告の補足が寄せられました。下記に紹介いたします。

***** 支援活動の背景とその後について(2月16日記)

この度の報告について若干補足します。

浄土真宗本願寺派（西本願寺）の保育連盟は、1000か園弱の加盟数で伝統宗教としては日本最大の繋がりがあります。多くの場合、寺院に隣接して幼保施設が立地しており、能登においても地域の集会所的な役割を期待されてきました。

住民の自主的な集まりで避難所となった理由にも、学校等の公的避難所が体育館などに滞在するのに比べて、保育施設は日常から給食や午睡の提供など日常生活に適した設備や環境が備わっていた点が挙げられます。

現在、保育施設は防災強化の観点から最低でも数日程度の食糧等備蓄が勧められていますが、発災後に利用子どもを家庭に引き渡したあとの空いた施設利用に関して、BCP（事業継続計画）に定めること以上にどんな役割が果たせるか、一歩先の想像を巡らせたいと思います。例えば、高齢者や地域住民の受け入れももちろんですが、能登半島地震でも「福祉避難所」の開設は遅れをとりました。

今回の穴水町の保育施設は建物が損壊し、この場合に他園に利用子どもを接続する便宜、自園の保育職を派遣するといった地域、法人間連携についても、行政の主導を待つまでもなく心構えとしておきたいことです。

当該園は去る2月10日に自主避難所としての役割を解散しましたが、再開に目途はたっていないとのこと。他の市町や県外に転園された家庭も多く、給付費の補填、保障はどうかなど、被災した職員の生活再建といった課題も併せて注視しつつ物心両面の支援を続けていきたいと思えます。

社会福祉法人多度志保育会

たどし認定こども園かぜっこ 園長 殿平 真

主任セミナー 分散交流会まとめ

11月に開催した主任セミナーは、久しぶりに対面のみ・1泊2日で実施することができました。テーマごとに分かれて交流する分散交流会も対面でじっくり話すことができました。その内容をまとめてご紹介します。みなさんの話している表情や聞いている姿からも充実した時間となっていたことが伝わってきます（同封資料参照）。

【経営懇活動日誌・1月】

- 1月7日(日)セミナー会場設営・配信準備
- 1月8～10日 第43回経営研究セミナー
- 1月10日臨時役員会（要望項目検討）
- 1月20日（土）全保連常任幹事会
- 1月22日（月）事務局会議
- 1月29日（月）三役会議
- 1月31日までセミナーの録画配信期間

<経営研究セミナー参加者に聞きました>

今年度、「がんばったなあ～」と思うことは？

- ・とにかく投げ出さずにここまで来れた！
がんばったなあ～と思います。（園長）
- ・異動して1年目。新しい環境で仕事をしてきたが自分の疲れに気づいていなかったと気づいた瞬間、がんばってたよな～と実感。（40代・園長）

同封資料

- ①誰でも通園制度の試行的事業実施要綱
- ②試行的事業実施自治体の一覧
- ③第56回分科会提案募集
- ④2.29署名提出行動ご案内
- ⑤主任セミナー2023 分散交流会まとめ
- ⑥能登半島地震被災地支援活動報告